

地 理

(問 題)

2011年度

〈2011 H23050015 (地理)〉

注 意 事 項

1. 問題冊子および記述解答用紙は、試験開始の指示があるまで開かないこと。
2. 問題は2～6ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷の乱れ、解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて解答用紙の所定欄にHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。欄外の余白には何も記入しないこと。
4. 試験が開始されたらただちに、解答用紙の所定欄（2か所）に、受験番号および氏名を正確に丁寧に記入すること。
5. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
6. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

I

次の文はそれぞれ中国の省または都市について述べたものである。読んで問いに答えなさい。

1. 東北3省の1つであるこの省の東部では、(A)の流域の隣接諸国と貿易・工業などの国際交流を行う開発計画があるが順調に進んでいない。西部の都市(B)では、外資が入る以前から自動車工業が盛んである。
2. 中国の農業地域区分において稲作と畑作を分ける目安となる(C)山脈の麓にあるこの省には、世界遺産の万里の長城や秦始皇帝陵がある。石炭や天然ガスなどの鉱産資源が豊富であり、天然ガスは北京へも供給されている。省都の(X)は古代王朝の都であったため観光客も多く、日本では旧称でも知られている。
3. 直轄市の1つであるこの都市は、毎年、全国人民代表大会が開催され、在留邦人数でも中国有数の都市である。近年、地下鉄や環状道路網が整備され、郊外の市街化が一層進んだ。この都市の外港として発展した(Y)は中国有数の貿易港であり、日系自動車メーカーの工場がある。
4. 中国経済の牽引役を担ってきたこの省の発展には、1997年に特別行政区に指定された(Z)の影響が大きい。さらに、農村の余剰労働力を吸収して企業化した中小企業も経済発展に大きな役割を果たした。1988年にはこの省から(D)省が分離し、観光業に力を入れ日本からも観光客が訪れている。
5. 茶の生産や華僑の出身地としても有名であるこの省には、経済特区である(E)があり、対岸地域からの投資により経済発展した。日本との交流は歴史的に古く、明代には琉球王国との交易が盛んであった。
6. (F)盆地にあるこの都市には、大河が流れ、盆地内で産出する石炭を利用して工業都市として発展した。1997年に直轄市となる際に市域を拡大し、北海道を上回る面積となった。

問1 文中の空欄A～Fに入る適語を答えなさい。

問2 文中の空欄X～Zに入る適語を漢字で答えなさい。

問3 5の省名を漢字で答えなさい。

問4 6の都市名をカタカナで書きなさい。

問5 下線部(a)の名称を答えなさい。

問6 下線部(b)に関して、この大河に建設した大規模なダムが環境への影響などから注目されている。このダムの名称を答えなさい。

Ⅱ 次の文章はそれぞれ世界文化遺産に登録されている地区や建造物を持つヨーロッパの首都都市について述べたものである。よく読んで問いに答えなさい。

1. 日本よりも大きな面積を持つ国の首都であるこの都市は、紀元前に（ a ）人が川の中の島に植民都市を建設したのが始まりとされる。その後王国の首都となり、世界的大都市に成長したが、旧市街には高層ビルはほとんどなく、重厚な都市景観が維持されてきた。これに対して経済成長を図るために西よりの近郊に（ A ）と呼ばれる再開発地区が建設され、そこには超高層オフィスビルが並ぶ異質の景観が出現している。なお、この都市は地質構造を反映した（ B ）と呼ばれる特徴的な地形の上にあることでも著名である。
2. ヨーロッパ屈指の大河の河畔に育ったこの都市は、第1次世界大戦の時代まで長くヨーロッパに君臨した大帝国の首都として歩んだ歴史を持ち、旧市街地には、帝国時代の歴史的景観がよく残っている。文化的には多くの著名な（ C ）の活躍した都市として、その関連施設に諸外国から多くの人が訪れる観光都市である。さらにこの都市は、（ b ）を始めとして多くの国際機関が置かれている国際都市でもある。この国の西部は大きな山脈の東部にあたり、夏は自然観光や保養を求めて、冬はスキー客など、多くの人が訪れる。特に2度の冬季オリンピックを開催した州都（ D ）のまわりの山村では、早い時期から多くの農家民宿が客を受け入れてきた。
3. この都市が首都として歩んできた国は、たびたび他の国に占領されてきたきびしい歴史を持つ。この都市は、第2次世界大戦中に建物の約9割がドイツ軍によって破壊されたが、戦後それらの建物は市民の力で元どおりに復元され、世界遺産に登録されたことはあまりにも有名である。（ E ）に対抗するために旧ソ連が盟主となってつくった条約にも名を冠していた。この都市がある国は、農業面ではヨーロッパ有数の（ c ）生産国である。また、ヨーロッパで相互に国境を越えるときに一切の審査を必要としない（ F ）協定の加盟国でもある。
4. この都市はユーラシア大陸の西端に近い場所にあり、大航海時代に入って貿易の中心都市として空前の繁栄を見せた都市である。大きな川の河口が沈降してできる地形である（ G ）に臨んで、港湾都市として発展した。世界遺産に登録されている修道院には、大航海時代に活躍したバスコ・ダ・ガマの棺が安置されている。彼は特に（ H ）の輸入によって、この国に莫大な利益をもたらした。多くの丘から構成されているこの都市では、急坂を走る路面電車が名物的存在となっている。また、この国の南部の気候を反映する植物からつくられる加工品である（ d ）の生産は世界で群を抜いており、重要な輸出品となっている。

問1 空欄A～Hに最もよく該当する語を、解答欄に記入しなさい。

問2 空欄a～dに該当する語を下記の語群からそれぞれ選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

- | | | | |
|-----------|------------|------------|-----------|
| a（イ. ケルト | ロ. ギリシャ | ハ. ローマ | ニ. ゲルマン） |
| b（イ. ユネスコ | ロ. 国際原子力機関 | ハ. 国際司法裁判所 | ニ. 欧州議会） |
| c（イ. ブドウ | ロ. 米 | ハ. トウモロコシ | ニ. ジャガイモ） |
| d（イ. ワイン | ロ. パスタ | ハ. コルク製品 | ニ. 紅茶） |

Ⅲ

次の文章は、それぞれ赤道以南に国土を持つアフリカの国々について述べたものである。文章を読み、以下の設問に答えなさい。

1. アフリカ大陸の南西部に位置しており、面積82.4万km²の国土の多くがBW気候下にある。この地域では沿岸部を寒流の（ A ）が北上し、乾燥した空気が偏西風で運ばれるため、いわゆる海岸砂漠が卓越しやすい。この国の西岸に発達する（ B ）砂漠もその典型例といえる。1920年に隣国の委任統治領となったが、1949年に隣国が一方的に領土への編入を進めたため武力紛争に発展した。その後、1988年の包括和平協定を経て1990年に独立を果たし、^(a)東経20度とオレンジ川がこの隣国との国境線を形成している。ダイヤモンド、ウランなどの希少資源に恵まれ、国民1人あたり総所得3,450ドル（2007年）はアフリカ諸国の中でも相対的に高い。
2. （ C ）海峡でアフリカ大陸と隔てられている島国であり、島の面積58.7万km²は世界第4位に相当する。ジュラ紀に大陸から分離したため、その後は動植物が独自の進化を遂げており、観光資源や研究対象として世界的に注目されている。この国の先住民は（ D ）系人種であり、現在でも彼らが多数派を占める。島の中央部には2,000mを超える脊梁山脈が南北に走り、Af気候が卓越する東部と、BW・BS気候が卓越する南西部とを隔てている。その南西部の乾燥地域や中央部の高原地帯を除く広い地域では、^(x)先住民に由来する穀物栽培が広く営まれているほか、商品作物としてコーヒー、バナナ、丁子香なども栽培されている。
3. 国土の大部分が南緯20度よりも低緯度に位置する内陸国であるが、75.3万km²の国土の大半が標高1,000mを超える高原上にあるため（ b ）気候が卓越する。1891年に北ローデシアの名称でヨーロッパ列強の植民地となり、1953年には同じ宗主国が支配する南ローデシア、ニアサランドとともに中央アフリカ連邦を結成したが、1963年にこれを解消、翌64年に独立を果たした。アフリカ諸国の中で（ c ）の産出量が最も多いが、内陸国で輸出港を持っていないため、隣国の首都で港湾都市でもある（ E ）との間に中国の援助で鉄道を敷設した。
4. 赤道を挟んで両半球に国土がひろがり、その面積234.5万km²はアフリカ諸国の中でも第（ d ）位に相当する。1885年にヨーロッパ諸国のある王室の私有領として植民地となり、1908年にこの国の直轄植民地に組み込まれた。首都の旧名レオポルドビルは往時の国王の名前に由来している。1960年に独立したが、地下資源の採掘権をめぐる部族間対立や分離独立運動が頻発し、1971年には国名を（ F ）に変更したが、1996年に隣国ルワンダで勃発した内戦の影響で1997年に政権が崩壊し、再び国名を変更するなど不安定な政治状況下に置かれてきた。南部の（ G ）州で卓越する（ c ）をはじめ、ウラン、コバルトなどの希少資源にも恵まれているが、2002年の和平合意後も政治状況は安定していない。

問1. 空欄A～Gに該当する語を解答欄に記入しなさい。

問2. 下線部（x）について、具体的な耕作方法を解答欄に答えなさい。

問3. 下線部（a）について、ほぼ同経度上にあるアフリカの都市を1つえらび、その記号を解答欄に記入しなさい。

イ. アクラ ロ. チュニス ハ. ベンガジ ニ. アレクサンドリア

問4. 文中の空欄b～dに該当するものを下記の語群からそれぞれ選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

b （イ. Cfa	ロ. Cfb	ハ. Cs	ニ. Cw）
c （イ. 鉄鉱	ロ. 銅鉱	ハ. ボーキサイト	ニ. 金鉱）
d （イ. 1	ロ. 3	ハ. 5	ニ. 7）

問5. 1～4の国々は、それぞれヨーロッパ諸国の植民地としての経験を持っている。以下のヨーロッパ諸国のうち、上記1～4いずれかの宗主国として該当しないものを1つえらび、その記号を解答欄に記入しなさい。

イ. ポルトガル ロ. フランス ハ. イギリス ニ. ベルギー ホ. ドイツ

Ⅳ 次の文章は、それぞれオセアニアの2つの国について述べたものである。文章をよく読み、以下の問いに答えよ。

1. この国は、2つの大きな島と周辺の島々から構成される島嶼国家である。19世紀にイギリス人の入植が本格化するとともに、先住民のマオリ人との間の軋轢が増し戦闘も繰り広げられたが、最終的にはイギリス人側が勝利した。こうした戦争や伝染病などによりマオリ人の人口は急減し、一時は4万人程度にまで減少したが、1930年代から政府は彼らに対する就業支援や融資を積極的に行うようになり、現在は国の総人口の約（ a ）%を占めるまでに回復した。

国土は2つのプレートが境を接する場所にあり、地殻変動が活発な変動帯となっている。プレート境界の西側に位置する北島の中央部には活動中の火山も多い。また、冬に多くの低気圧が通過し降水量が多くなる北島では、とくにその西部において（ b ）が盛んである。一方、南島には3,000m級の脊梁山脈が走り、この山脈の東側では下降気流の影響で比較的乾燥し、暖流の影響で冬の寒さもそれほど厳しくないため、羊の飼育と小麦栽培を組み合わせた（ A ）が盛んである。また山脈の西側、とくに南部では湿潤な（ B ）がまともに山脈にぶつかるため年降水量が6,000mmを超える所もあり、こうした降水量の多さが氷河を発達させる大きな要因ともなった。

1882年の（ C ）の就航以後、乳製品や肉の長距離輸送が可能となり、イギリスとの貿易を主軸とする時代が長く続いたが、1973年にイギリスがEC（現EU）に加盟してからは太平洋周辺諸国との経済的な関係を強めており、現在の最大の貿易相手国は（ c ）となっている。

2. この国の大部分は中緯度高圧帯の影響下にあり、国土の約（ d ）%は年降水量500mm以下の乾燥地域・半乾燥地域となっている。イギリス人による本格的な入植が始まったのは1788年で、上陸地である（ D ）はその後この国の重要都市として発展をとげた。その後、農地の開発が進められるとともに、1850年代からはゴールド・ラッシュが始まったことにより人口は急増し、1901年に連邦制が採用された時には、この国の人口は約383万人にまで達した。

農地の開発にとっての最大の制約要因は降水量であり、現在でも農業地域の大半は粗放的な放牧地で占められている。19世紀後半からは灌漑事業が徐々に進められるようになり、とくに1960年代以降にはスノーウィー山地開発事業により大型の多目的ダムの建設が行われた。その結果、（ E ）川流域の大規模な灌漑事業が実現され、比較的集約的な農業地域が誕生した。しかし、長期にわたる過剰灌漑によって土壌の（ F ）が進み、近年では農業生産に深刻な被害を与えるようになっていく。

産業の発展には多くの労働力が必要であったため、20世紀以降、イギリス人のみならずイタリア人、ギリシャ人などヨーロッパの非英語圏出身者の移住も増加した。一方、ゴールド・ラッシュ以来、（ e ）人も鉱山労働者として多く流入し、それが発端となって有色人種の移民を制限し白人だけの社会を維持しようとする（ G ）政策が始まり、1970年代まで差別的な移民政策が続けられた。その後は、太平洋周辺諸国との関係の強化が図られ、政策的に多文化主義の社会が目指されるようになり、アジア諸国からの移住者もかなり増えている。

問1 空欄A～Gに該当する語を解答欄に記入せよ。

問2 空欄a～eに該当するものを下記の語群からそれぞれ選び、その記号を解答欄に記入せよ。

- | | | | |
|---------------|------------|----------|--------|
| a (イ. 5 | ロ. 15 | ハ. 25 | ニ. 35) |
| b (イ. 大麦栽培 | ロ. 小麦栽培 | ハ. ブドウ栽培 | ニ. 酪農) |
| c (イ. アメリカ合衆国 | ロ. オーストラリア | ハ. 中国 | ニ. 日本) |
| d (イ. 30 | ロ. 50 | ハ. 70 | ニ. 90) |
| e (イ. インド | ロ. インドネシア | ハ. 中国 | ニ. 日本) |

〔以下 余 白〕